

「やらされる教育」から「やりたくなる教育」へ： 先生たちのマインドセット変革と挑戦の物語

やらされる教育(受動)

受動的な教育観からの脱却

従来の「教える側」の権割から、
子供の「伴走者」へとパラダイムシフト。
子供が自走し出すを信じて待つ土台を形成。



2. 未知への挑戦とパイオニア精神 「ファーストペンギン」 として未知へ飛び込む

県内唯一の取り組みに挑戦する「わくわく感」と、新しい学びの形を作るパイオニアとしての詞り。自由度が増す教育課程を運用するため、高度な「マネジメント力」への意識を向上。



4. 本質的な「学びたくなる」授業 外側ではなく 「内発的動機付け」を重視



授業を作業にさせず、子供が心から「学びたくなる」本質を架いた指導。教務自身が「最初の学び手」となり、指導主任の背中を見て裏倣し
たくなる良いモデルケースに。

やりたくなる教育(能動)

1. 共感から「自分たちの物語」へ 教師は教える側から 「伴走者」へ

経営方針はトップダウンの指示ではなく、全員が同じ方向を向いて進む連帯感のあるストーリー「自分たちの物語(シーズン2)」として受容。

3. 多様性が生む「クリエイティブ・ギルド」 職員室は「多才なギルド」 であり「安全基地」



全方位から子供の興味をキャッチできる「最強の武器庫」。凸凹が噛み合う心理的安全性(失敗を笑いに変える「イジリ力」や「寛容さ」)が挑戦を支えるセーフティネット。

5. 職員室の笑顔が子供の幸せの源泉

職員室＝ 「大人の特別活動」の場



まず先生たちが楽しみ、笑顔でいることが、
巡り巡って子供たちの安心感と幸せに直結。
管理ではなく「自治」への侍志。役割を子供
自身が考えるプロセスを全力でバックアッ
プし、自定を変える覚悟。

教育の未来は、先生たちの
挑戦と笑顔から始まる。